

全教広島第70回中央委員会 数値による競争・管理に抗い 子どもも教職員も安心できる職場づくりを

9月26日(土) 13時より、広島市東区民文化センターで全教広島第70回中央委員会をオンライン併用で開催しました。会場21名、オンライン10名で執行部、中央委員、オブザーバー含めて31名の参加で成功しました。5月の定期大会からこれまでの中間的な総括を行い、秋のとりくみを中心とした方針を論議しました。支部、専門部の活動や、「おかしい」ことに声をあげるとりくみ等11本の発言があり、いずれも執行部の提案を豊かに補強するものでした。次期学習指導要領改訂の作業が進む中で、教育施策の問題点を指摘し、「教育とは何か」「学校・教職員の役割は何か」を根本から問う発言が相次ぎました。「人材づくり」ではなく「人格の完成」をめざす教育実践を教室の内外ですすめていくことの重要性を共有する会となりました。



開会のあいさつに立つ
船石執行委員長

競争させる教育に抗う

開会のあいさつで船石執行委員長は、「異常気象や世界で続く戦争、AI開発の行き過ぎなどに触れ、それらは全て人間が引き起こしていることであり、行き過ぎているのはむしろ人間ではないか」と語りました。その上で、「教育の仕事においても、

行き過ぎがあるのではない。何でも数値化し、子どもも教職員も競争させられている。それを当たり前と思わず抗っていくこと、一人ひとりが声をあげることが私たち組合の役割だ。子どもにとっても教職員にとっても居心地のいい職場づくりをすすめよう」と述べました。

一つひとつのとりくみに
仲間増やす視点を

執行部からは、まず、5月の定期大会以降、えがお署名、県立高校再編・統合に反対する運動、夏の平和・核兵器廃絶を求めるとりくみなどの総括がありました。続いて、確定闘争、教育

のつよいヒロシマ、教育全国署名など、この秋からの運動をすすめていく上での具体的などりくみの提起がありました。また、組織拡大、仲間を増やすとりくみでは苦戦を強いられている実態も率直に語られ、一つひとつの重要な運動をすすめていく上で、そこに「いっしょに声をあげ、世の中・教育を変えていこう」と声をかける視点をもって一歩踏み出してほしいとの提起もありました。全ての議案が全会一致で採択され、秋からの運動に力強く踏み出していこうと確認しあいました。



全会一致で議案を採択



お子様ランチの旗を汚した場合、「国旗損壊罪」にあたるか、そんなバカげた議論を真面目にしなければならぬ、お粗末で体をなさない法律が成立しました。日の丸は、かつて日本の侵略戦争・植民地支配の象徴的存在であり、国の内外に複雑な思いを持っている人々が多く存在しています。「国旗損壊処罰法」は内心の自由や権利を縛る法律です。改正された「皇室典範」もしくりです。また、殺傷能力のある武器の輸出を認めることが閣議決定されました。今、政府・与党は数の力で、憲法に反する法律を矢継ぎ早に成立させています。昨年、辺野古沖での高校生が亡くなった事故に際し、文科省は政治的中立性に違反すると「見解」を公表しました。これを機に、教育現場の萎縮を招く懸念が広がっています。私はかつて、校区の小選挙区立候補者3名の公約などをもとに、選挙制度について授業を行い、生徒は、選挙制度や日本の政治や経済、自分の家計などについて学習を深めました。教育基本法第14条第1項には、「良識ある公民として必要な『政治的教養』は、教育上尊重されなければならない。」とあります。私たちは、憂慮する現在の政治や経済の動きを敏感に感じ取り、今後、発達段階に応じて「政治的教養」を高め、憲法に立脚した「主権者教育」を進めていく必要があると思います。(〇)

あらくさ

「人格の完成」をめざす教育 そのための「働き方改革」

中央委員の 発言要旨



市教組(全教)
橋詰さん

市教組執行部に入ってから半年、いろいろな会に参加している。相生橋周辺でのペンライト集会の警備は、平和への意思を表す方たちの安全を担う貴重な経験だった。東京での組織拡大集会ニューウェーブでは、全国の先生方の姿に感銘を受けた。県労連定期大会では、学校以外の職場からの生の声に子どもたちの保護者の姿を重ねた。執行部での活動で世界が広がり、現場での仕事にも生かされている。今後も組合のよさを伝え、新加入につながる動きをしていきたい。



市教組(全教)
藤中さん

昨年度の義務特手当の減額と担任加算に続き、先日、特支教育に係る特勤手当の減額提示があった。業務負担は減っていないが、特支学校・学級以外にも支援が必要な子が増えたからだという。特支の特勤手当を減らす理由になっておらず、筋が通らない。教職調整額が増え、給料全体がアップしたから良いという問題でもない。働き方改革は、長時間過密労働の解消が目的だった。しかしそれは子どもと向き合う時間の確保のためである。言い換えれば、子どもの願いを積み、それに応える実践を考えて行う時間が保障されること、人格の完成という教育の目的のためには必要だ。そのための働き方改革だということを忘れずに運動をすすめたい。



女性部
折出さん

6月に実施した総会では、教材研究がすごく楽しいのだけれど、時間が足りない。やはり持ち時数が多い。「働き方改革」に各校がとりくんでも限界を感じる、ということが話題になった。8月の専門部交渉でも、休暇制度は少しずつ前進しているが、それを活用しにくい実態を伝え、「改善を」と訴えた。このような私たちの働き方をどうしたらいいかということ、11月3日の学習会では、60歳からの働き方や子育て中の働き方について当事者に話題提供をお願いしてみんなで話をしてほしいと考えている。おいしいもの、心と体のリフレッシュ運動もある、職場の同僚を誘って参加してください。



青年部
和田さん

全国教研のプレ企画などで、様々な青年のレポートを読む機会があった。心に残った2つのレポートには共通点がある。それは、子どもが変わるだけでなく、子どもと心を通じ合わせながら教師自身が成長する、共に成長し合うということだ。現在の学校では、「規律を守る」「できることを増やす」など、競争的な空気が流れている。若手教員、青年教員は、その空気に流されそうになるが、組合や民主的な団体の学びを通して、静かに、でも強くその流れに抗っていききたい。



障害児教育部
幅野さん

特別支援学校のプール講師になったが、要求しないと勤務条件を記入したペーパーがもらえない。権利意識が薄くなっている。障教部では「わいわいトークカフェ」を開催し、参加者の幅も広がっている。まず集まって日頃の思い、悩みを語り合うことを大切にしたい。全教が『インクルーシブ教育の提言』を策定した。通常学級の先生と一っしょに学習したい。1月には山口で「障害のある子ども」の教育を語り合う全国学習交流集会がある。となりの県であるので、一っしょに行つて学習しよう。



海田支部
胡谷さん

教育のつどい全国集会「参加と共同の分科会」で子どもに自分

から幸せをつかみとる力をつける実践、子どもの生活をまるごと受けとめる実践を学んだ。これからの学校は、学ぶ権利と生きる権利を学校に出入りする全ての職種の者が一体となって保障する、子どもの権利条約が生きていく学校づくりが求められている。海田支部は、子育てサークルといっしょに実行委員会をつくり、子どもの権利条約をみんなで学ぶ第3回教育のつどい(3月27日)を準備している。多くの人と学びあいたい。



市教組(全教)
水原さん

広島市内の小学校で、おそらく主務教諭を想定した「新たな職」の研究が行われている。その職

(前ページ下より)

は「統括部長」。参観日の前日の夜に、担任の先生の体調不良によるお休みが予想されるとして、非常勤の組合員に「明日、授業をしてほしい」と電話があったことも。市教委が作成した「新たな職」の研究要項に「担当教諭には担任及び授業をもたせない」「校内で欠員が生じた場合、担当教諭を代員としない」とある。

これを校長がかたくなに守れば、前述のようにになる。研究校なので加配だが、これが現場にすれば、定数内での配置になる。子どもにとって一番必要なことは何かという視点が欠けていることに疑問を感じる。正面から反対していくことが必要だ。

福山支部 新加入の方 養護教諭の方

8月に福山支部で組合加入した。看護師として病院で働いて

いたが、昨年度の春から臨時で養護教諭をしている。職場におられた組合員の先生に学習会に誘ってもらい参加したが、その時の話や資料がすごく素敵だったことが印象に残っている。学校で校長に「子どもにめられるな」みたいなことを言われて疑問に思っていたが、全教の先生方の、子どもと対等で敬意をもち、自分自身が「学びのプロ」であり「民主主義のプロ」であれという考え方が素敵。職場の組合員の先生が管理職にも言うべきことを言う姿も素敵だ。これからも、いっしょに学ばせてもらいたいと思っています。



養護教員部
小林さん

中3生徒、2学期になり遅刻する日が増え、1学期に口にしてきた受験への不安は、

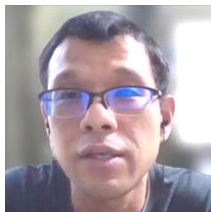
あきらめになった。学校でできることはないかと「保健室で放課後、課題をしたら？」と声をかけるとやるようになった。「眠れない」「食べられない」「何も手につかない」と訴える生徒もいる。中2生徒は、保護者からの言葉の暴力に悩んでいる。報告後、管理職から聞かれるのは「虐待にあたるのか?」「通報が必要なのか?」ということ。子どもに寄り添うということ、子どもの命を守るということについて考えさせられる。



福山支部
小林さん

全国教研に参加し学んだことをもとに、四点お話したい。一点目は、戦争と平和を考える教育がますます重要になっていること。子どもたちの未来を左右するこ

の問題について、子どもたちと対話すること。2点目は、それと関連して子どもの声を聞くこと。子どもたちが自分なりの考えを集団の中で、交流を通じてもつことの大切さ。3点目は、次期学習指導要領の全面的な批判がどうしても必要だということ。指導要領のデジタル化で、若い先生たちの人格を丸ごと冒してしまう可能性もある。人材育成ではなく、人格の完成をめざす民主教育の財産を組合は持っている。最後に、それらを活かして教育研究活動を充実させよう。そのためには11月の教育のつどいヒロシマ成功のために奮闘する。



委員長
植松さん

一昨年、交流人事で特別支援学校に配属された。二年間という任期で

特別報告

「インクルーシブ教育提言」の学習・議論を

会の中で特別報告として障害児教育部長の谷田さんが、全教がこのたび策定した「インクルーシブ教育提言」についての解説をしました。「提言」では、「インクルーシブ教育」を、通常学級在籍の子どもを含む「全ての子どもを対象とし、多様なニーズをもった子どもたちの発達を保障するために、すべての学びの場で行われる教育」と考え、その観点から今の教育施策やそれぞれの学びの場の課題を指摘し、改善の方向性を示しています。



「提言」は「詳細版」と「概略版」の2種類あります。

あったが、二年目に過度のストレスが原因で病氣休職を取得することになった。頭痛や吐き気、今までだと我慢できていたと思われた体調不良がともしんどく感じていた。年度末までにどうにか復職し、今年度は福山市内の中学校に配置換えとなった。まだ主治医との面談を続

けながらの治療は続いているが、今の職場では「先生が来てくれてよかったよ!」と言ってももらえる場面があったり、同僚とコミュニケーションを取りながら日々の問題に立ち向かえている。自分にできることを増やしていけるように、これからもスローペースで頑張りたい。

10月2日、広島市東区民文化センターで、障教部わいわいトークカフェを行いました。9名(未組2名)の参加でした。自己紹介の後、全教障教部の『すべての子どもたちの発達を保障する』インクルーシブ



障教部 わいわいトークカフェ

おいしいパンを食べながら
グループトークで悩みを共有

「教育」の実現を提言の紹介をしました。後半は、特別支援学校、小中学校の各種で小グループに分かれて進めました。重症心身障害の子どもの気持ちをとらえ、受け取ったようにいか、どのように関係性を作っていくか、子どもがワークするような授業作り、教材の工夫、子どもたちの気持ちに寄り添うということ、ラバラになりがちな学級の子どもたちをどのように指導したらいかが、などの話で盛り上がりました。今回のカフェのお菓子は、いしうちベーカーリーのパンを準備し、美味しくいただきました。今年度「障害のある子どもたちの教育を語り合う、全国学習交流集会」が山口市で開催予定なので、広島からたくさん参加したいと思えます。次回のカフェは未定ですが、みなさん

県教委確定交渉

- ①主務教諭設置にかかわる交渉
10/27(火) 15:15～
- ②確定交渉(一次)
11/10(火) 15:15～
- ③確定交渉(最終)
11/30(月) 18:00～
会場はいずれも県庁東館602会議室

「こんなものいらない!」アンケート



へのご協力をお願いします



10月末まで

のニーズに答えながら、集まって、交流できればと思います。わいわいトークカフェのLINEグループも開設しています。

この秋は、3つの署名の 確実な集約を!

- ①教育全国署名(11月末まで)
- ②賃金・労働条件改善要求
職場団体署名
(1次〆切 11/6、最終 11/27)
- ③高校再編見直し請願署名
(11月末まで)

広島県議会議長 様 2026年 月

広島県立高等学校の在り方に係る実施計画の
抜本的な見直しを求める請願署名

【2026年秋】
賃金・労働条件改善要求 職場団体署名

広島県知事 横田 美香 様
広島県教育委員会 教育長 篠田 智志 様
教職員の賃金・労働条件改善を求める重点要求

【請願 広島県再編統廃する会やする】しい選等の生模様の学費をの負担一人ひめてい教育要あった

広島県議会議長 様

国の責任による「20人学級」を展望した少人数学級の前進、教職員定数増、教育無償化、教育条件の改善を!
2026年度 すべての子どもたちにゆきといた教育を求める全国署名

教育のつどいヒロシマ 2026

【11月14日(土)】

記念講演：楠 凡之さん

(北九州市立大学名誉教授)

【演題】すべての子に学ぶ喜びを
～子どもたちの多様性を活かした
学びを築いていくために～



【楠さんの主な著書】

「自閉症スペクトラム障害の子どもへの発達援助と学級づくり」高文研
「虐待 いじめ 悲しみから希望へ」高文研
「感情コントロールに苦しむ子ども その理解と対応」(共著) 高文研
「あの子はなぜ荒れるのか 発達障害・アタッチメントと
トラウマインフォームドケア」(共著) 高文研
「虐待とトラウマの世代間連鎖を乗り越える」(共著) 高文研

10:00～12:30	13:30～16:00	17:30～20:00
問題別分科会	教科別分科会	全体会・記念講演
広島市・広瀬小学校		広島ロードビル・大会議室 & オンライン

近づいてきました。同僚を誘って参加を！記念講演はオンラインで視聴可。下のQRコードで申し込みを。

